

<令和4年度秋季大会シンポジウム企画>

船底や漁網に使用する防汚剤汚染は終わったのか？

日時・場所：令和4年9月7日（水） 9:00-16:15

企画責任者：張野宏也（神戸女学院大）・隠塚俊満（水技研）・小島隆志（海技研）・岡村秀雄（神戸大）

9:00－ 9:05 開会の挨拶

張野宏也（神戸女学院大）

I. 有機スズ汚染は改善されたのか？

座長：岡村秀雄（神戸大）

9:05－ 9:40 1. 巻貝類のインポセックスとその誘導メカニズム

堀口敏宏（国立環境研）

9:40－10:15 2. 日本における有機スズ汚染の現状

張野宏也（神戸女学院大）

10:15－10:50 3. 水生生物における船底防汚物質の毒性影響

大地まどか（東京農工大学）

10:50－11:00 休憩

II. 有機スズ代替物質の汚染の現状と生態影響は？

座長：小島隆志（海技研）

11:00－11:35 4. イルガロール、ディウロン、ECONEAの汚染実態と影響

岡村秀雄（神戸大）

11:35－12:10 5. ピリチオン類、シーナインの汚染実態と影響

隠塚俊満（水技研）

12:10－12:45 6. ボラン類の汚染実態と影響

河野久美子（水技研）

12:45－13:45 休憩（昼休み）

III. 防汚物質を取り巻く現状

座長：張野宏也（神戸女学院大）

13:45－14:20 7. 船底防汚塗料に関連する船体付着生物管理ガイドラインに関する概要

小島隆志（海技研）

14:20－14:55 8. 環境調和型付着防汚剤の開発

北野克和（東京農工大）

14:55－15:30 9. 近年の船底防汚塗料の技術開発の動向

三重野紘央（中国塗料）

15:30－15:40 休憩

IV. 総合討論

座長：隠塚俊満（水技研）

15:40－16:10 総合討論

16:10－16:15 閉会の挨拶

児玉 真史（水産環境保全委員会・水技研）

企画の趣旨

船舶及び漁網を生物汚損から守るため、1960年より防汚剤として有機スズ化合物が使用されはじめた。しかし、有機スズ化合物は、水生生物に高毒性を有するのみならず新生腹足類に対してインポセックスを生じさせていることに加え、環境中に広く分布していたため、2008年IMOにより世界的に使用を禁止するAFS条約が発効された。しかし、この条約により有機スズ汚染が終息したかどうかの報告はない。さらに現在有機ス

ズ化合物に変わり約10種類の代替物質が使用されているが、それらの汚染実態および水生生物に対する影響を集約した報告もない。

本シンポジウムでは、世界的に使用禁止となっている有機スズ化合物および現在使用されている有機スズ代替物質による汚染の現状から問題点を見出すとともに、国際的な規制や新たな防汚物質の開発状況を踏まえて、最も望ましい防汚方法について考えることを目的とする。

<令和4年度秋季大会ミニシンポジウム企画>

地域共創による水産業の活性化

日時・場所：令和4年9月7日（水） 9:00-12:10

企画責任者：都木靖彰（北大院水）・竹村明洋（琉球大理）・征矢野 清（長大海セ）

- 9:00- 9:05 開会の挨拶・企画の趣旨説明 都木靖彰（北大院水）
- 座長：征矢野 清（長大海セ）
- 9:05- 9:30 1. 北海道における「共創の場」の取り組み 石井一英（北大院工）
- 9:30- 9:55 2. 持続可能な陸上養殖構築に向けた「養殖シミュレータ」の開発 高橋勇樹（北大院水）
- 座長：都木靖彰（北大院水）
- 9:55-10:20 3. 沖縄県における「共創の場」の取り組み 竹村明洋（琉球大理）
- 10:20-10:45 4. 若者が考える陸上養殖の未来とは 宇田川伸吾（琉球大研推）
- 10:45-10:55 休憩
- 座長：竹村明洋（琉球大理）
- 10:55-11:20 5. 長崎県における「共創の場」の取り組み 征矢野 清（長大海セ）
- 11:20-11:45 6. 海面養殖のこれからの在り方 細川貴志（日東製網/長大海洋未来イノベーション機構連携研究員）
- 座長：浦 和寛（北大院水）
- 11:45-12:05 総合討論
- 12:05-12:10 閉会の挨拶 征矢野 清（長大海セ）

企画の趣旨

水産業の課題として、魚病・赤潮等の被害、飼料コストの増加、収入の不安定性、就業者数の減少、後継者不足などが挙げられる。これら数々の問題を解決するためには、大学、研究機関、自治体、企業など多様なステークホルダーを巻き込みながら、地域の独自性や強みに基づく産学官民金融での共創拠点を形成し、地域の水産業を活性化

していくことが必要不可欠である。本シンポジウムでは、JSTの「共創の場支援プログラム」に採択された、北海道大学、長崎大学、琉球大学の3大学における持続可能な水産業を達成するための、それぞれの地域での課題とそれらを解決するための取り組みについて紹介し、地域に根ざした水産社会の未来像について議論したい。

＜令和4年度秋季大会ミニシンポジウム企画＞

アオリイカ漁業の現状と将来 ―漁業者との協働研究―

日時・場所：令和4年9月7日（水） 9:00-12:10

企画責任者：宮崎 多恵子（三重大院生資）・江幡 恵吾（鹿大水）

9:00- 9:05 開会の挨拶・企画の趣旨説明

宮崎 多恵子（三重大院生資）

I. 生理・生態

座長：江幡 恵吾（鹿大水）

9:05- 9:30 1. 超音波バイオテレメトリを用いた産卵期のアオリイカの回遊生態

吉田 悠馬（鹿児島県水技セ・広大院統合生命科）・海野 徹也（広大院統合生命科）

9:30- 9:55 2. アオリイカ3種の視覚機能・アカイカアオリイカの飼育下における発生・成長・成熟

宮崎 多恵子・大隅 彪・倉崎 大地（三重大院生資）

II. 漁具・漁法

9:55-10:20 3. アオリイカのエギ釣法 ―漁業及び遊漁の現状と展望―

余田 昂彌・森 有平（株式会社ヤマリア）

10:20-10:45 4. アオリイカ浮式かご漁具の新規導入に向けた試験操業

―種子島漁業者との協働操業の取り組み―

江幡 恵吾（鹿大水）・追立 昭政（種子島漁協）

10:45-10:55 休憩

III. 資源・環境

座長：宮崎 多恵子（三重大院生資）

10:55-11:20 5. アオリイカ人工産卵礁の効果・天然礁の状況

笠岡 祝安（株式会社中山製鋼所）

11:20-11:45 6. 宮崎県におけるアオリイカの資源評価について

圓目 裕介（宮崎県水試）

11:45-12:05 総合討論

座長：宮崎 多恵子（三重大院生資）

12:05-12:10 閉会の挨拶

江幡 恵吾（鹿大水）

企画の趣旨

アオリイカ漁業は人工産卵礁の設置による資源増殖努力に支えられている。これまで大学・行政・企業は、漁業者の協力と助言のもと、効果的な産卵礁の構造と適切な設置場所・水深の検討、イカの視覚特性と海域ごとの光学的環境に応じた疑似餌の開発、かご漁具による捕獲技術の開発ならび

に資源状況調査を行ってきた。本シンポジウムでは、これら漁業者との“協働”研究について紹介するとともに、近年表面化している、海水温上昇による漁獲や餌生物への影響、大型海洋動物による食害等の問題を共有して対応策を議論し、本漁業の振興を図るための知恵を集約する。

<令和4年度第2回水産増殖懇話会講演会>

九州発：大学の増養殖研究とアウトリーチ活動

日時・場所：令和4年9月7日 13:30-17:00 フェニックス・シーガイア・リゾート（新型コロナウイルス感染が拡大した場合には実施場所や方法に変更の可能性があります）

企画責任者：阪倉良孝（長大院水環）

13:30～13:35 開会の挨拶・趣旨説明

座長：阪倉良孝（長大院水環）

13:35～14:00 九州大学における養殖研究とアウトリーチ

松山倫也（九大農）

14:00～14:25 「唐津Qサバ」の開発と販路形成

長野直樹（宮大農）

14:25～14:50 鹿児島県のウナギ増殖プロジェクト

小谷知也（鹿大水）

14:50～15:00 休憩

座長：小谷知也（鹿大水）

15:00～15:25 琉球大学 COI-NEXT サステイナブル陸上養殖拠点

竹村明洋（琉大理）

15:25～15:50 長崎大学 COI-NEXT ながさき BLUE エコノミー形成拠点

征矢野清（長大海洋イノベ）

15:50～16:15 宮崎密着型の循環型サクラマス養殖

内田勝久（宮大農）

16:15～16:25 休憩

16:25～16:55 総合討論・意見交換会

16:55～17:00 閉会の挨拶

阪倉良孝（長大院水環）

企画趣旨

大学の研究は、科学の真理を探究する基礎研究を担う一方で、アウトリーチ、すなわち各々の大学の地域との連携も求められるようになって久しい。これらの要求はもちろん増養殖分野にも及んでおり、大学ごとに特色のあるプロジェクトが動いている。令和4年度に日本水産学会秋季大会が九州で開催されることにちなみ、本シンポジウムでは、九州にある大学の増養殖研究とアウトリーチ活動を紹介するとともに、広く情報交換を行うことを趣旨として企画した。

<令和4年度秋季大会水産学若手の会企画>

水産学ってどんな分野があるの？
～水産学若手の会を舞台に～

日時・場所：令和4年9月7日（水）13:00-17:00

企画責任者：小祝敬一郎（海洋大）・小川健（専修大）・松井英明（水産機構水大校）・相馬智史（水産機構資源研）・加藤豪司（海洋大）

13:00-13:10 開会の挨拶・企画の趣旨説明 加藤豪司（海洋大）

座長：小川健（専修大）

13:10-13:40 水産生物へのシングルセル解析の適用と課題 小祝敬一郎（海洋大・ACT-X研究者）

13:40-14:10 フグの TTX 供給源から考えるフグ毒研究 米澤遼（東大・DC2）

14:10-14:40 「餌料生物」という分野で研究を続ける中で私が考えたこと
松井英明（水産機構水大校）

14:40-15:00 休憩

座長：小祝敬一郎（海洋大）

15:00-15:30 オミクス解析を水産に活かす 相馬智史（水産機構資源研）

15:30-16:00 貿易理論の人間が水産経済に手を出すまで 小川健（専修大）

16:00-16:30 GAS 細胞を起点とする魚類独自の鰓粘膜免疫機構 加藤豪司（海洋大・創発研究者）

座長：小祝敬一郎（海洋大）

16:30-16:50 総合討論

16:50-17:00 閉会の挨拶 小川健（専修大）

企画の趣旨

一口に水産学といえども、その分野は多岐にわたります。本シンポジウムではこれからの水産学の一翼を担う水産学若手の会メンバーが、どんな研究をしているのか?どんなことに興味を持っているのか?どんなキャリアを経てきたのか?どんなことに困っているのか?などを紹介します。本シンポジウムへのご参加が、水産学に関する参加者の皆様の視野を広げるきっかけになれば幸いです。将来のキャリア選択を考えている学生のみならず、多くの方のご参加をお待ちしております。